



いずみ

No.41

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 11



《戦争の蛹》
さなぎ

水谷のぼる

(2ページに「作者の言葉」)

特集「市民の愛蔵彫刻展」

自作自選 11 作者の言葉

少々、虫好きの私には今までも蝶や地上の蛹をモチーフにした作品もありましたが、地中で育った蛹の形に魅せられて作成しました。戦争という「産業」の先兵とされる若者たちをセセリ蝶の蛹をモデルにし、原型から同じものを5体作りしました。若い人たちを使い捨てにするこの国の地中の蛹から羽ばたいていくのは何？… (水谷のぼる)

タイトル：「戦争の蛹」

設置場所：作者所蔵

制作年：2010年

素材：ポリエステル樹脂

サイズ：高さ800mm

連載

宮の森の四季 11

本郷信記念札幌彫刻美術館

「4つの星—札幌二中の彫刻家たち」へどうぞ

館長 佐藤 信

9月22日から当館では「4つの星—札幌二中の彫刻家たち」を開催しております。「4つの星」すなわち本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、本田明二は札幌第二中学校(現札幌西高)に学び、戦後日本で活躍した彫刻家です。本郷新は新制作協会の彫刻部創設にリーダーとして奔走したわけですが、4人は新制作協会という共通の基盤のなかで互いに刺激し合いながら制作に励みました。標記の展覧会はこの4人にスポットを当てたものです。是非ご覧ください。

また、高村光太郎を通じて紹介され、彼らを含む当時の日本の彫刻家たちに多大な影響を与えたロダンをはじめ、ブールデル、デスピオ、マイヨールといったフランス近代彫刻の巨匠たちの名品も合わせて紹介しておりますのでお楽しみください。

札幌西高は、大正2年(1913年)、北海道庁立第二札幌中学校として開校し、今年度創立100周年を迎えております。うれしいことには、100周年事業協賛会の一事業として、このたび校舎前広場に本郷新の《鶏を抱く女》と山内壮夫の《家族》が設置され、9月26日に除幕式が行われました。既に広場に設置されている佐藤忠良の《蒼穹》、本田明二の《戦没者記念碑》と合わせて、二中「4つの星」が永久に輝くこととなりました。



すべては「偶然の出会い」から

田中 和夫(作家・「札幌文学」発行人)

時計台が札幌市立図書館の名で開館したのは1950年ころらしいが、私が市立図書館に通い始めたのは1958年ことだった。このころから市立図書館は受験を控えた学生の利用が多くなり、一般閲覧者の座席が不足しだした。

その日も同じだった。仕方なく、書架から適当に本を抜き出して立ち読みを始めた。その時「北海道史人名辞典」の背文字が目に入り、書架から抜き出して頁をめくり始めた。「村橋久成」なる人物のところで、目が止まった。鹿児島出身で箱館戦争では政府軍の軍監として活躍、戦後は開拓使に出仕して開拓使幹部に累進。明治14年、官を辞し帰国の途中、病で死んだ、という開拓使時代の経歴が書かれていた。

これが私と村橋久成の出会いである。

1982年、薩摩藩派遣の英国留学生だった村橋久成の生涯を小説「残響」として出版したのを機に、資料収集の際のお礼を述べに鹿児島を訪れた。西鹿児島(現、鹿児島中央)駅広場に薩摩藩派遣英国留学生15人のモニュメント「若き薩摩の群像」を鹿児島市が建立した直後だったので、市長に引き合わせていただいた。市長室で市長との会話が佳境に入ったとき、隣室で私に続いて市長との面談を待っていた人が、不意に市長室に入ってきた。「若き薩摩の群像」作者の中村晋也さんだった。鹿児島大学教授で日展評議員

の中村さんは、隣室で市長と私の話を聞かれていたようだった。話は大いに弾んだ。

その年の秋、北大図書館北方資料室で村橋久成の写真が発見された。翌年、中村さんはその写真を基に彼の胸像を製作した。フォルム、表情、ともに力強くダイナミックな1寸余りのブロンズ像だった。約束どおり、私の小説と同じ「残響」と名づけられていた。お金のためじゃあなく、札幌のどこかに建ってさえくれれば、という中村さんの意を受けて関係のところを駆けずり回ったが、非力な私には中村さんの期待にはついに応えられなかった。

それから20年、「残響」は鹿児島の村橋美術館に収蔵されたままだった。その間に中村さんは日本芸術院会員、日展理事、文化功労者の荣誉に輝いた。

そんな時、高橋はるみ知事が登場し、就任初めての道政執行方針演説の結びで村橋久成のエピソードを引用し、「彼が高い志で取り組んだ果敢な挑戦こそフロンティアスピリット」と評した。

原動力は高橋知事の方針演説だった。やがて「胸像『残響』札幌建期成会」が発足し、多くの方々の協賛を得て2004年9月に知事公館の前庭に建立された。そこは中村晋也さんが願っていた「札幌の白樺の木の下」だった。

すべてが偶然の出会いから始まり、完結した。その偶然に感謝している。

特集 市民の愛蔵彫刻展 1

札幌彫刻美術館友の会設立 30 年記念企画展

「市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション」大好評

入館者 驚きの 550 人超 予想を上回る人気



友の会が初めて企画した展覧会「市民の愛蔵彫刻展—魅せます私のコレクション」は8月29日から9月2日まで、札幌・中央区の本郷新記念札幌彫刻美術館で開催され、559 人の入館者を記録、空前の大成功をおさめた。

企画展には友の会が人脈を頼りに探し当てたコレクター20 人からの協力を得て 56 点の秘蔵彫刻を展示した。

初日のオープニングセレモニーでは橋本信夫友の会会長の挨拶に続いて札幌市の杉本雅章文化局長、助成金の交付を受けた公益財団法人太陽北海道地域づくり財団・東原俊郎理事長がお祝いの言葉を述

べ、さらに佐藤信同彫刻美術館館長、コレクターを代表して大西美智子さんから 5 人がテープカットを行って開幕した。

日ごろ各家庭に秘蔵され、なかなか公開される機会のない作品だけに会場を訪れた人たちからは「めったに見られない貴重な機会」「すばらしい彫刻ばかり」の声があいついだ。

会期中の9月1日には会場でミュージアムコンサートを開き、クラシックギタリストの宮下祥子さんが「アルハンブラの思い出」などギターの名曲を演奏して花を添えた。



開会の挨拶をする橋本会長(左の写真)テープカットの瞬間。左から大西、佐藤、杉本、東原、橋本の各氏(右の写真)



太陽財団の東原理事長から特別出品された高村光太郎作《薄命児》。

静かな雰囲気の中で彫刻を鑑賞する人の姿が絶えなかった

2階席まで満員盛況だったミュージアム・ギターコンサート。(写真右)マイクを持って曲の説明をする演奏者の宮下祥子さん



彫刻展アンケート ほぼ全員が「大変良かった」

102 通回収 「次回は出品に協力できる」の声も

「市民の愛蔵彫刻展」では入場者にアンケートを行い、展覧会への率直な感想、今後の展望などを聞いた。102 人がアンケートに答えてくれた。企画展に対する評価では 99 人が「大変良かった」と答え、「まあまあ」を加えるとほぼ全員が彫刻展を評価した。また、今後の開催については 101 人が「開催を希望する」。また、将来の開催に向けて「彫刻出展などで協力できる」と答えた人も 23 人いた。以下は寄せられたおもな感想。

▼よく、こんなにすばらしい作品を集められたものと感心しました。

▼所蔵者のコメントがあり、親しみを持って鑑賞できた。

▼20年ぶりに訪れ、老父を連れてきた時を思い出した。ふだん見られない作品を見ることが出来た。

▼出品リストがとても見やすかった。

▼それぞれの家で彫刻が生活の一部として愛されていることが伝わってきた。

▼個人のコレクションで一般には見られないもの。ありがたい試みだと思います。

▼コメントがアットホームで作品を身近に感じることができた。

▼思わぬ作家の意外な作品に出合えて、来た甲斐がありました。

▼とても良い企画だが、会期がもう少し長ければ良かった。やや周知不足だったかも。

▼彫刻というと公共の場にデーンと鎮座しているイメージだったが、生活の中で愛でる作品を持つなんて素敵だなと思った。

▼所蔵者それぞれの温かいものが感じられた。舟越保武の「ローラ」は離れがたい思いだった。

▼とても良い企画。1回で終わらず、2回、3回と続けてほしい。

▼作者名など、もっと上の位置につけてほしかった。

▼小さな作品でも見応えがあった。

▼市民がこんなに素晴らしい作品を持っていることに驚いた。エピソードが書いてある作品は特

に楽しく見られました。

▼今までの彫刻展に比べ親近感が盛り上がった。所蔵者の思いが空間に満ちあふれていた。

▼大切にしている作品だけに味わい深く、心に残る作品が多かった。

▼この展覧会に協力した方に感謝したい気持ち。

▼説明のプレートの高さや文字の大きさに工夫を。読む人の視線の高さを考えて。

▼もう少し長い期間の開催を望む。コメントが面白かったのも、もっとそれぞれあった方がいい。

▼ビデオを見せてもらい、彫刻が完成するまでの過程が分かり、作品を深く味わえるような気に。

▼美術作品は美術館にあるだけと思っていたが、自宅に彫刻があるなんて素敵。いい企画だった。

▼個性的な作品が多く、バラエティー豊かだった。



特集 市民の愛蔵彫刻展 3

「市民の愛蔵彫刻展」を終えて

友の会創設30周年を記念した「市民の愛蔵彫刻展」が本郷新記念札幌彫刻美術館で8月29日～9月2日の5日間開催され、盛会裡に無事終了しました。

当会念願のこの企画は昨年秋に役員会で取り上げられ、今年5月の総会を経て一挙に展開しました。同時に大勢の会員から寄せられた私蔵彫刻の情報や所蔵者のご理解とご厚意のもとに、作品リストの作成、搬出・搬入の手順や保険など多岐にわたる作業がボランティア会員によって円滑に進められ、さらに会員や市民による寄付金と公益財団法人太陽北海道地域づくり財団の助成金によって開催資金の目処が付き、一段と活気づきました。

一方、新たに立ち上げられた実行委員会によって展示作品の選考や展示方法などが具体化し、遂に8月29日にオープニングの運びとなりました。

開会式では上田文雄札幌市長代理の杉本文化部長と太陽財団の東原理事長の挨拶に

札幌彫刻美術館友の会会長 橋本信夫
続いてテープカットセレモニーが本館前庭の芝生で華やかに行われました。

例年のない酷暑にもかかわらず、来館者は5日間で559人を数え、また、その多くが作品を丹念にゆっくり鑑賞されている姿が印象的でした。展示作品は何れも個人の玄関や居間で飾られる程度の大きさが多く、さらに道内外の著名な彫刻家の様々な年代のものが並べられ、その多様さは目を見張るばかりでした。

こうして市民の手で集められた市民秘蔵の彫刻が公設美術館で公開されるという、全国初の快挙ともなる企画が実現したのです。

これまで当会は「できる時に、できる人が、できる事を、好きなだけ」をモットーに柳のようにしなやかな組織として31年の年輪を重ねてきました。これからもこの会が、「論語」の「三十にして立つ」に倣い、栄養豊かなサッポロの大地で大勢の草の根市民によって生まれ、たくさんの小枝を付けた新しい市民文化活動の大樹に育つよう、願っています。

ご協力ありがとうございました—「市民の愛蔵彫刻展」寄付者氏名

(順不同・敬称略)

石垣 渉 小山英昭 久保田彩荷 伏木忠了 笠 康三郎 福井貴美子 山田清司 橋本信夫
梅津紘子 溝口芳夫 佐藤延子 坂本のり子 海南久美子 森 茂樹 大西美智子 猪股岩生
仲野三郎 剣持小枝 井口洋子 金井重博 加藤 誠 安田 侃 高橋昌宏
高橋淑子 原 典夫 島岡孝子 鈴木貞司 浜 久子 片山美代 伊藤末子 高橋 宏 細川房子
佐々木保枝 鈴木榮一 林田理栄子 高島郁夫 亀村雅子 船本のりえ 大久保史絵子 久末満三
梁井 朗 大竹保廣 大竹明子 永喜多宗雄 加藤 誠 昆野照美 羽賀 隆 小尾 陞 佐藤美
保子 斎藤ミサヲ 西田浩太郎 井上雅子 鈴木吾郎 千葉俊三 大内 和 久本由美子 菊地真
悟 星 義雄 大東文化大同窓会 (9月5日現在)

札幌・中島中学生徒へ彫刻清掃指導

元同校美術教師・坂 坦道制作《協力》像がすっきり

札幌・中島中学校の校庭にあるセメント像《協力》の清掃が8月2日、同校で行われ、学校側から応援を求められて友の会のメンバーが生徒への清掃指導を行った。

《協力》の像は羊ヶ丘展望台の《丘の上のクラーク》像でおなじみの彫刻家・坂坦道が同校で美術教師をしていた時代の1964年、生徒たちが廃品回収で集めた資金で制作されたもの。長年の風雪で汚れがひどくなり、清掃の仕方を友の会に求めてきた。この日は橋本信夫会長はじめ腕に覚えの会員らが参加、生徒たちに清掃の仕方を指導した。同校の卒業生で友の会の会員である松岩達さんに当日の様子を寄せてもらった。



恩師の彫刻《協力》との再会

松岩 達(会員)

母校中島中学を、8月2日、40年振りに訪ねました。坂坦道先生の彫刻との再会です。先生の息子さんは資料を持って駆けつけ、先生のデッサンを持った生徒も登場しました。

この日は汚れが目立つセメント像「協力」を、生徒と一緒に高圧洗浄機ですっきり。思えば先生は60年安保の時代、保守・革新という教師枠にはまらず、独立独歩の信念を貫き通した人。大学時代、黒百合会でデッサンした私の出発点を思い起こしました。

清掃後は昨年全国一になった女性合唱部員の迫力ある歌声のサプライズ。私は、大学のフォークソング研究会で歌い、正門前にあった喫茶店で夜中までフォーク談義。その後輩になる中島みゆきが「店の名はライフ」という曲を歌っています。当時使っていたヤマハのフォークギターを修理に出すと、特有の低音が蘇り、改めて歌い始めました。

アートをベースに出会いが重なり、先立った妻の空白が埋まりそうに感じます。

機能回復訓練にも一役

病院のリハビリ患者と彫刻清掃

彫刻清掃の軽作業が病院で闘病生活を送る高齢者のリハビリに効果があるのではないかと札幌・西区の太田病院とタイアップした彫刻清掃活動が7月4日、本郷新



記念札幌彫刻美術館そばの宮森緑地(通称ナマコ山)で行われた。

当日は病院のスタッフと患者、友の会メンバー15人が同緑地にある本郷新の「鳥を抱く女」と「太陽の母子像」の2体を洗った。

病院関係者は40リットルのビニール袋に水を入れ、脚立や雑巾を手に意欲満々。水洗い、乾燥、ワックス塗りの作業を黙々とこなした。初めて彫刻に触れ、磨くことに汗を流して爽快感と充実感を味わったようで、作業が終わるとどの顔も晴れ晴れしていた。

事務局日誌

▼7月12日＝定例役員会(エルプラザ)企画展プログラム推進協議
▼19日＝企画展実行委員会(彫刻美術館)出品作品の絞り込みを行い56点を決定▼26日＝臨時役員会(エルプラザ)企画展案内状、チラシなどの発送作業▼8月1日＝市役所記者クラブで企画展資料配布と説明▼2日＝中島中学で彫刻清掃協力▼8日＝企画展実行委員会(展示レイアウト、搬入、搬出方法など検討)▼17日＝企画展直前準備会議(エルプラザ)作品搬入スケジュール、作品リスト、所蔵者コメント作成ほか)
▼28日＝企画展作品搬入作業
▼29日＝企画展オープン(彫刻美術館前庭)テープカット

編集後記

▼不安と期待をないまぜにして企画展「市民の愛蔵彫刻展」が無事終わりました。十分とは行かないまでも取りあえず「企画展報告特集」の形にしました▼アンケート結果にも見るように、大好評でした。会長の言葉にもありますが、会の活動の更なる発展の原動力となるものと思います。それにしても小さな力の結集は見事でした。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.41

2012年10月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30)

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

会報「いずみ」41号 目次

自作自選 11 《戦争の蛹》 水谷のぼる	表紙
作者の言葉	2
「宮の森の四季 11 「4つの星—札幌二中の彫刻家たち」 佐藤信	2
風見鶏「すべては偶然の出会いから」 田中和夫	3
特集「市民の愛蔵彫刻展」	4—6
①彫刻展成功裏に終了②寄せられたアンケート結果③お礼の言葉	
友の会ニュース	7
中島中学の彫刻清掃、彫刻清掃をリハビリに	
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか	8

本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

本館

■「4つの星—札幌二中の彫刻家たち」

会期：開催中～11月11日

札幌二中(現札幌西高)に学んだ本郷新、山内壮夫、佐藤忠良、本田明二らの作品を紹介し、その影響関係を探る。札幌西高開校100周年記念事業との連携行事。

期間中の10月13日、27日(いずれも土)14:00から学芸員ギャラリートークを会場で開催。

記念館

■本郷新の部屋

会期：開催中～来年4月14日

本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください。

<http://sapporo-chokoku.jp>